
闇喰らうは王がために

斬龍黒牙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇喰らひは王のために

【Zマーク】

Z8284X

【作者名】

斬龍黒牙

【あらすじ】

とある国でクーデターが起きた。王は信頼できる部下を数名だけ引き連れて逃げる。

いつたい王は逃げてどうしようかと思つのか？

登場キャラクター

登場キャラクター

王（フェルデス・トロイメア・ファフニール・フレグラーンス）

性別

年齢16

フレグラーンス家の長男生まれてすぐに、父を失う。
生まれてすぐに王となるが摂政として母が政治をする。
大人（この世界では16歳で大人）になつて善政をしようとしてす
ぐに母がクーデターを起こす。

ディテイスエール・P・ドレイクパンドラ

性別

年齢28

前王から仕える最強の騎士。

亡き王の命によりフェルデスに仕える騎士となる。
異名として「孤高王」と言われる。

異名の由来は王を守るために百万の敵と戦い見事勝利したため。

クロイツェル・V・バハムートヴァルトウーム

性別

年齢28

ディテイスエールの親友にして前王の参謀。

剣の腕もたち、魔法も使う。

ディテイスエールと同じく前王の命によりフェルデスに仕える。
ディテイスエールと互角に戦える。

異名として「幽星王」と言われる。

由来はその戦い方が切つたはずなのに、切れず。星のよう瞬く攻撃をするため。（命名：ディティスエール）

ギルファード・G・フレスベルグ

性別

年齢 17

フェルデスが昔助けた少年。

以来ずっとフェルデスを陰ながら支える。

実力は一人より強いと思われる（なんでも有りなら、正々堂々なら確実に負ける）。

ギルファードのお陰でクーデター発生前に逃げられた。

第一話「脱出」

街は薄暗く、あちこちで火のてが上がる。

「王を探せ！我らが国に新たなる息吹を！」

兵の一人が叫ぶ、それに続いて多数の兵の雄叫びがあがる。

「ひつぐ。僕は何も悪いことしてないのに」

少年・・・王は空き家に隠れ自分の信頼する部下の帰りを待つが一向に帰ってくる気配が無く、泣き始めた。

「王よ！」

「ディティスエール！無事だつたんだね！」

王は信頼する部下の一人、ディティスエール・P・ドレイク（バンドラ）が入つて來たので出迎えた。横にはディティスエールの親友にして戦友クロイツェル・V・バハムート（ウォルトウーム）がいた。

「王！急いで脱出を！今なら我ら一人が前に出れば大丈夫です！」
クロイツェルが叫ぶと同時にトスつと何かが落ちる音が聞こえた。

「安全、脱出経路。」

そこには黒一色の少年がいた。

「ギルファー！いつも言つてゐるだろ？がーいきなり「まあ待てクロイツェル」しかしだな」

黒一色の少年の名前はギルファード・G・フレスベルグと言つ。

「それで、ギルファ。安全な脱出経路つて？」

王が尋ねるとギルファードは懐から地図を取り出し見せた。

「この赤い線が脱出経路か？」

クロイツェルが尋ねるとギルファードは「クリと頷いた。

「ん？おい待て！ギルファ、これはどう言つてもりだー？この経路は大通りだぞ！敵が集中しているんだぞー！」

ディテイスエールが叫ぶとギルファードは上に一度ジャンプして降りてきた。

「これ

ギルファードがそう言つと、袋をディテイスエールに渡す。

「なんだコレ？」

袋の中には敵の鎧などが入っていた。

「なるほど。敵に变装してから紛れこめば、見つかりません！」

クロイツェルがそう言つと、ギルファードは頷く。

「だけどギルファ。それだと外には逃げれないよ」

王がギルファードに言つ。

ディテイスエールとクロイツェルも確かにと頷いた。なぜなら今この街のすべての門は閉じられているからだ。門を開けなければ正面からは出られないのだ。

「・・・経路変更。」

ギルファードがそう言つと、今度は青い線を引く。

その先には汚水を流している水門がある。

「・・・ギルファ、そこは鉄格子で・・・」

クロイツェルが説明しようとした瞬間、ギルファードはクロイツェルにあるものを見せた。

「なんだ？それは。」

ディテイスエールが尋ねる。

「これは確かですか？」

クロイツェルがギルファードに尋ねると、ギルファードは頷いた。

「クロイツェル、僕達にもわかるように話して。」

「失礼しました。王、ギルファが言つには、この鉄格子には特殊な仕掛けがあり、ギルファの持っているのはその格子の一部なんです」

クロイツェルの言葉に、ギルファードも頷く。

「あそこには行きたくないねえが……背に腹は変えられないな……」

ディテイスエールがそう言うと、四人は服を着替え、敵側の兵士と同じ服のまま汚水が街の外に流れる水門に向かう。

水門には誰も居らず、ギルファアは急いで何かをすると、水門の鉄格子が外れていく。

「早く」

ギルファアがそう言つと、クロイツェルが「先行します！」と言つと先を歩いて行く、その後に王が続く。

「ドレイク！」

ギルファードが叫ぶと、ディテイスエールは辺りを確認する。

「格子を戻せるか？」

ディテイスエールはギルファードに尋ねると、「クリと頷く。

「なら急げ！」

ディテイスエールが入ると、ギルファードが急いで直す。

「お前！何をしてる！」

敵の兵士がギルファードに尋ねる。

「異常が無いか調べてたら・・・」

ギルファードは兵士にそう言いながら格子を直す。

「何をしているんだ。早く直してからあの王を探すんだぞー俺も向こうに仲間が待ってるからもう行くぞ」

兵士はそう言うと仲間のもとに戻つて行く、ギルファードは急いで中に入り、格子を直す。

ギルファードが居ない状態で三人は急いで外に向かっていく。

「ディテイスエール！ギルファは来たか？」

クロイツェルがディテイスエールに尋ねる。

「いや、まだだ。アイツのことだから大丈夫だろ。」

「ディテイスエールがそう言うと、不意に後ろに気配が現れた。

「すまん。敵、発見。やり過ごしてた・・・」

ギルファードが走りながらディテイスエールに言う。

「そつか。クロイツェル！ギルファが着たぜ！」

「そつか。なら王よ今しばしの」辛抱を

クロイツェルが後ろの王に言つと走る速度上げた。

ギルファードはディティスエールを抜くと王を背負いクロイツェルの速度に付いて行く。

そして十数分走り続けると前から光が見えた。

「光が見えた！」

クロイツェルが言つと速度を緩め、四人は街の外に脱出した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8284x/>

閻喰らうは王がために

2011年11月11日03時23分発行